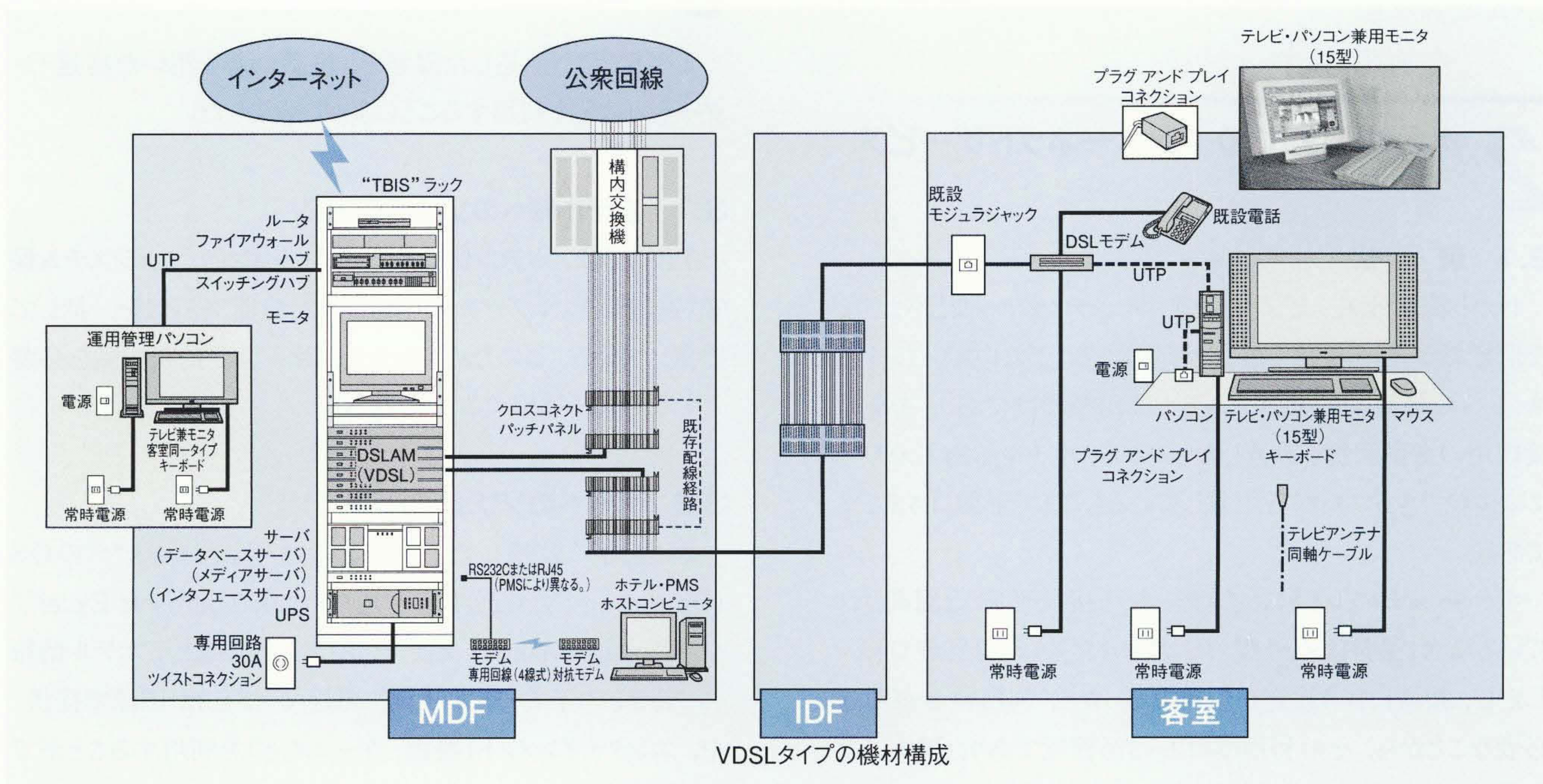


インターネットを利用した ホテル サービス システム“TBIS”

Hotel Service System Through the Internet

塩田 博之 Hiroyuki Shioda 加藤 和利 Kazutoshi Katô 奥村 幸三 Kôzô Okumura



注：略語説明 TBIS (Tourism and Business Information System), UPS (無停電電源装置), DSL (Digital Subscriber Line), MDF (Main Distributing Frame), IDF (Intermediate Distribution Frame), DSLAM (Digital Subscriber Line Access Multiplexer), PMS (Process Monitor System), VDSL (Very High Bit-Rate Digital Subscriber Line)

ユビキタスプラットフォームにおけるホテル客室への展開

ユビキタスプラットフォームにより、高速インターネットを通してブロードバンドを用いたホテル客室への情報サービスが提供される。

近年、ホテル業界は、ユビキタスな情報社会へと変わろうしつつある中で、いつでも、どこでも、簡便・安全に情報にアクセスできる環境を求めている。すでに、ホテル内でインターネットに接続し、さまざまなサービスを提供しようという動きも出てきている。

その一つが、株式会社ルーネットが開発したインターネット接続サービス“TBIS (Tourism and Business Information System)”^{※1)}である。これは、ホテル内にコンテンツ・課金・データベースのサーバを設置し、客

室内のパソコンをLANやVDSLで接続したネットワークを介してビデオ オン デマンドなどのサービスを宿泊客に提供するものである。

株式会社ルーネットのTBISソリューションと日立製作所のハードウェアプラットフォーム(客室内のテレビ・パソコン兼用モニター“Prius View”やミニタワー形パソコン“FLORA330”)を組み合わせることにより、パソコンでインターネットを自由に利用する環境を、ホテル経営者や宿泊客に提供することができる。

1 はじめに

株式会社ルーネットが開発したホテル客室用インターネット接続サービス“TBIS (Tourism and Business Information

System)”は、宿泊者が客室内でパソコンを利用し、電話回線を介してVDSL (Very High Bit-Rate Digital Subscriber Line)に接続することにより、エンタテインメントを含む総合

※1) TBISは、株式会社ルーネットの登録商標である。

的なサービスを受けることができるシステムである。

TBISでは、ホテルの内線電話を利用し、最大10 Mビット/sの通信が可能なDSL(デジタル加入者線)のネットワークを構築する。客室にはパソコンを設置し、映画や動画付き音楽などのエンタテインメント系コンテンツをビデオ オン デマンドで配信する。また、高速インターネットを客室から無料で使用できるようにしたほか、館内案内やレストラン予約などの総合的なサービスを可能にした。

ここでは、ホテル客室用インターネット接続サービス“TBIS”について述べる。

2 ホテル客室でのインターネットサービス

2.1 現 状

わが国には現在、ビジネスホテルやシティホテルなどさまざまな形態のホテルが約8千軒(62万室)ある。この中で、インターネットへの接続設備を持つホテルは10%程度であり、モデム接続用の電話回線を設置したものから、ホテル館内ネットワークに接続できるコネクタを用意しているものまで形態はさまざまである。

ホテルのパンフレットに「インターネット接続可能」と記載されている場合、通常はノート型パソコンの持ち込み利用ができる。しかし、接続に伴う設定が煩雑であったり、利用料金が別途必要なことから、その利用率は2~3%程度であり、現実には携帯電話(PHS)などによって通信基盤を確保し、利用者各自で対処していた。

2.2 課 題

出張者にとってパソコンの利用、特にインターネットの利用は、ビジネス拠点となるホテルでは不可欠である。メールの送受信など必要最低限の情報を得るには十分であったが、イン

ターネットを利用するには通話料金や通信速度に課題があった。

ホテル側では、客室には外線に接続できる設備を設けているものの、ホテルから外部への接続回線数は客室数の10%程度であり、この回線をインターネット接続で長時間独占されることが課題となっていた。

3 TBISによるソリューション

TBISでは、上述した課題を、電話回線を用いた高速インターネットなどを利用することによって解決した。

3.1 ホテル側へのソリューション

TBISでは、ホテル側へのソリューションとして、システム保守(遠隔)、ヘルプデスクサービス(24時間365日)を一括して提供している。このため、ホテル側は、専門的な知識を必要とすることなく運用することができる。

3.2 客室へのソリューション

客室内に設置したパソコンにはWindows^{※2)}のOS(Operating System)を組み込んでおり、Microsoft Excel^{※3)}やMicrosoft Word^{※3)}を使うオフィス業務のほか、ホテル情報(レストランの予約・空席状況、周辺マップを3か国語で提供)や、エンタテインメント(映画、ゲームなど)を利用することができる。さらに、インターネットの利用を可能にすることで、宿泊者に高度なサービスを提供している(図1参照)。

※2) Windowsは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標である。

※3) Microsoft ExcelおよびMicrosoft Wordは、米国Microsoft Corp.の商品名称である。

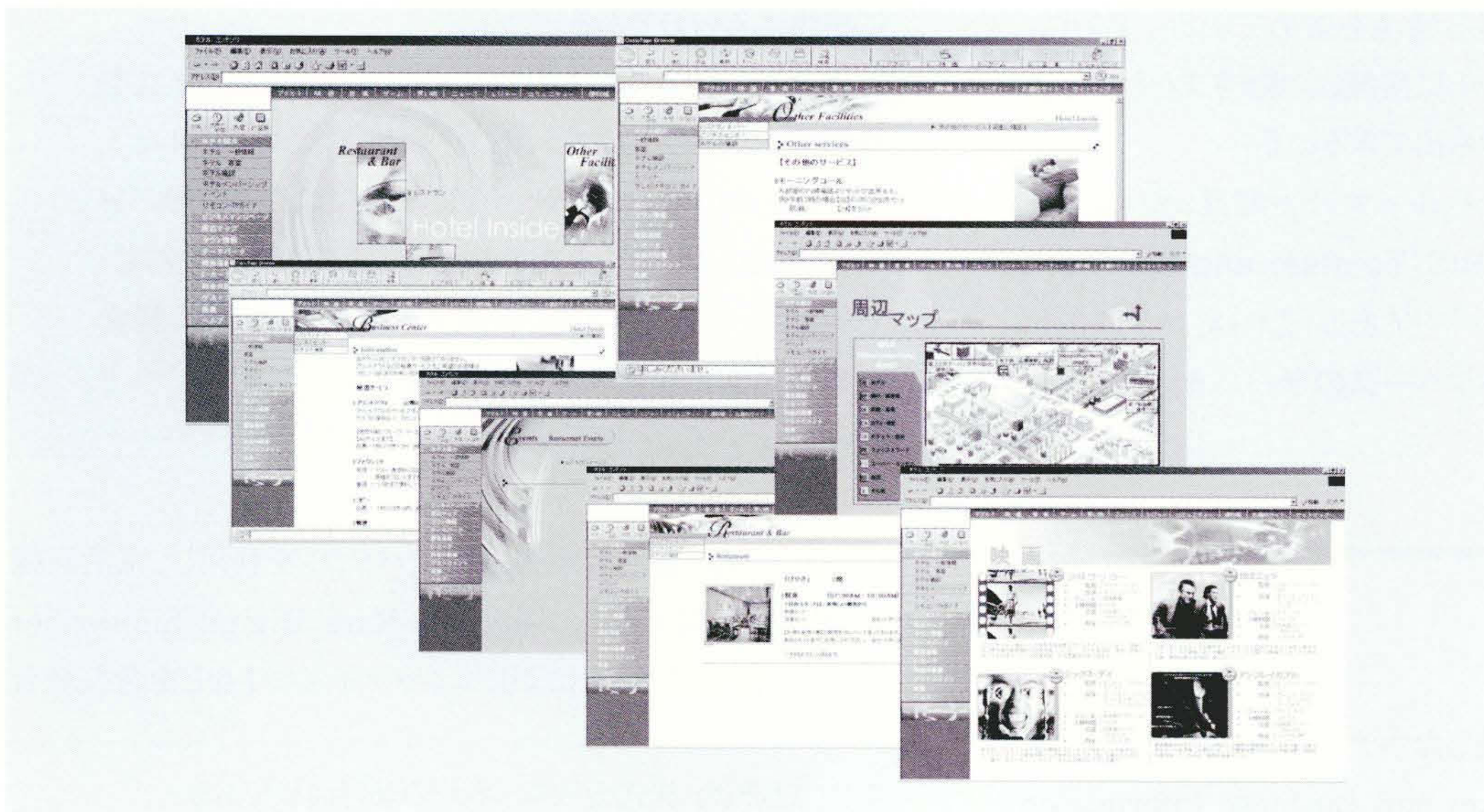


図1 各種サービスの画面例

各種サービスの画面(ホテルサービス、周辺マップ、映画、ゲームなど)は、総合サービス画面とリンクしている。

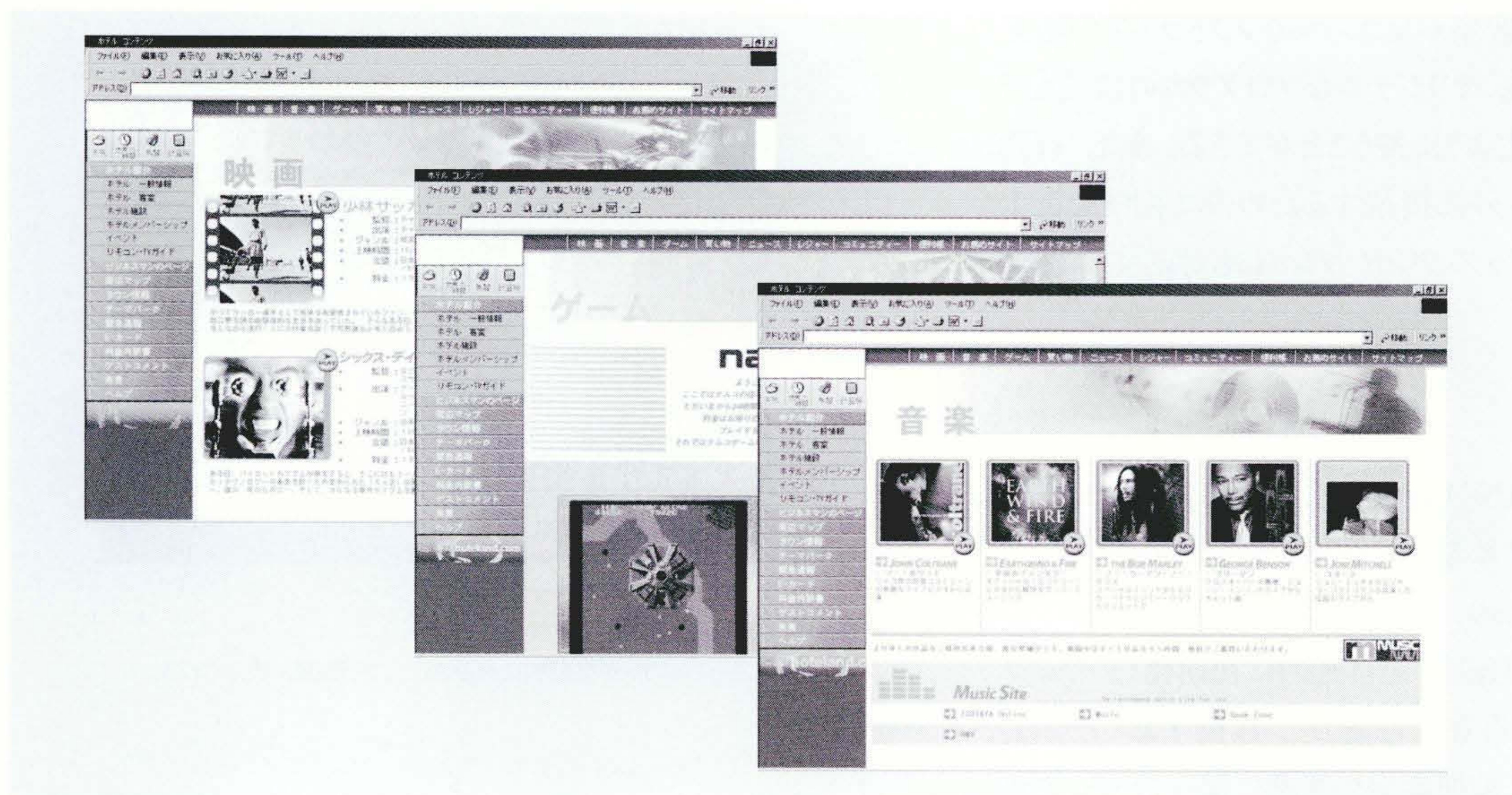


図4 エンタテインメント系の画面例

視聴した有料コンテンツの料金は、チェックアウト時にフロントで精算される。

ストの面から、フルタイムのサービスが難しい。これには、バーチャルショップによる、外部のデリバリーサービスや宅配などによって宿泊客の要求に対応することができる。

5.2 周辺マップでの商店とのかかわり方

ホテル周辺マップ内の飲食店などとの協業関係を持つことで、これら店舗の協力による割引クーポン券の発行や、ホテルの紹介による利用者割引などにより、宿泊者に特典を与えることができる。

5.3 新たなソリューションの開発

“TBIS”では、ICカードを使った個人認証システムを新たに付加した。認証によって個人別に情報を提供し、プリペイド機能(電子マネー)やクレジット機能を付加することにより、フロントでの精算を必要としない「ルームチェックアウト機能」を可能にし、フロント業務の効率化を図ることができる。

また、フロント付近に大型タッチパネルPDP(プラズマディスプレイ パネル)を設置して「本日の宴会案内・会議案内」のよ

うな表示をする、キオスク端末としての機能により、宿泊客だけでなくその他の来訪者などに、「ホテルの広告塔」としてのサービスが図れる。

6 おわりに

ここでは、ホテル客室用インターネット接続サービス“TBIS”について述べた。

TBISの導入により、ホテル宿泊客にとっては便利であり、また、ホテル経営者にとっては業務効率向上と集客力アップなどが図れる、インターネットサービスを実現することができる。

株式会社ルーネットと日立製作所は、今後も協力して、ユーザーにこたえる情報サービスを提供していく考えである。

参考文献

- 1) 日本ホテル年鑑, 株式会社オータパブリケーションズ(2001.1)

執筆者紹介



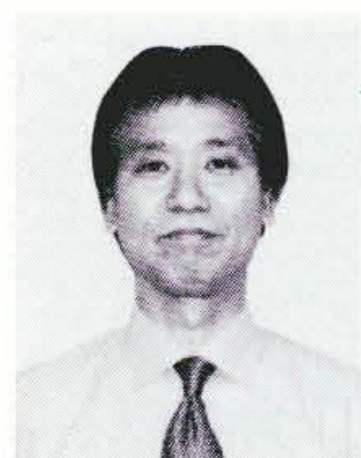
塩田博之

株式会社ルーネット 副社長
E-mail: shioda@roonets.co.jp



加藤和利

1982年日立製作所入社, 株式会社日立マイクロソフトウェアシステムズ メディアソリューション本部 システム第5設計部 所属
現在, システム開発に従事
E-mail: kkatoh@hitachi-ms.co.jp



奥村幸三

1971年日立製作所入社, ユビキタスプラットフォームグループ インターネットプラットフォーム事業部 インターネットソリューション本部 所属
現在, システムソリューションの開発に従事
E-mail: k-okumura@ebina.hitachi.co.jp